

下関・横野地区に子ども食堂開設 学習支援や多世代交流の場にも

ボランティアの地区住民から食事を配膳してもらう子どもたち1125日、
下関市横野町



下関市横野地区に子ども食堂「キッチンほまゆう」が設立され、25日に横野公会堂で初めて食事を提供した。毎月第3土曜の昼間にオープンし、子どもたちの学習支援や多世代交流の場としても活用する計画で、地域住民の居場所づくりを目指す。

と横野新町の両自治会、安岡地区まちづくり協議会が開設した。調理は松涛会が運営する安岡病院の調理室が担当し、50、60代を中心とした地区住民ら約40人が配膳などのスタッフとして参加。地元の企業や農協、フードバンク山口も食材の提供で協力している。

初回のメニューは特製チキンカレー、地元産はなつこりーが入ったコンソメスープ、くじらカツなどで、栄養バランスの取れた食事をと同病院の栄養士が献立を考えた。自治会の会報などを通じて各家庭に知らせ、子どもと保護者、お年寄りら32人が訪れた。

クリスマスコンサートやプレゼントを釣り上げるゲームもあり、安岡中3年の谷村信乃さん(15)は「おいしし楽しい。次は友達と一緒に来たい」と喜んだ。子どもは無料、大人は200円で利用できる。開設時間は午前11時半から午後1時半まで。

少子高齢化、核家族化が進む中、共同代表の齋藤妙子・松涛会理事長(87)と梶山由紀江・横野町自治会長(74)は「地域の中で子どもたちの健やかな成長を見守り、高齢者が豊かな生活を送るための拠点にしたい」と話す。(久岡照代)

地元の医療法人社団・社会福祉法人松涛会、横野町